

【概要】

3. 両生類・爬虫類

県内から記録されている両生類は7科19種、爬虫類は9科21種である（爬虫類の種数には本県ではごく稀に記録されるのみのウミガメ、ウミヘビ類を含む）。

鳥取県の小型サンショウウオには、ヒダサンショウウオの広域分布、カスミサンショウウオ内の2型（高地型と低地型）の存在、あるいは県外の集団と比べた場合の鳥取市近郊の低地型の遺伝的特異性など、種分化や地理変異の観点から興味深い現象がいろいろとみられる。

両生類では19種のうち半数を超える10種（前回と変わらず）が選定された。内訳は、「絶滅危惧Ⅱ類」2（オオサンショウウオ、カスミサンショウウオ、前回と変わらず）、「準絶滅危惧」5種（ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル。前回4種）「情報不足」1種（ニホンヒキガエル、前回と変わらず）、「その他の保護上重要な種」2種（イモリ、カジカガエル。前回3種）である。前回掲載種のうちツチガエル（情報不足で掲載）は、その後の調査で比較的安定して生息していることがわかったので、今回はランク外とした。

これに対して、爬虫類は、「絶滅危惧Ⅰ類」で1種（アカウミガメ。前回0種）、「準絶滅危惧」で1種（ニホンイシガメ。前回0種）、「情報不足」で3種（スッポン、タカチホヘビ、シロマダラ。前は4種）が選定されたのみである。

これらの選定種の中で特筆されるのはオオサンショウウオである。中国山地は本種の主要な生息地となっており、

鳥取県でも日野川流域などは現在でも良好な産地として知られている。前回以降、孵化幼生の発見などによる繁殖確認が中・西部の河川から報告されているが、幼生、幼体などの各成長段階が頻繁に確認されている生息地は今のところ日野川など河川の上流域に限られている。本種は繁殖開始後の生存期間が非常に長いため、再生産できない事態におちいついたとしても、成体の存在だけをみて生息状況は良好だと錯覚するおそれがある。本種の幼生確認を含めた水系レベルでの生態調査とモニタリングがきちんとされる必要がある。

近年は全国的に、メダカやドジョウなどかつて田んぼにふつうに見られた生き物の個体数の減少が目立っている。圃場整備による水田環境の変化（乾田化や用水路のコンクリート化など）にその主因があるとされることが多く、おなじ理由で、田んぼに普通にみられたトノサマガエルやイモリの減少が各地で報告されている。本県ではこの両種はまだ比較的健全に生息しているものの、今後の生息の動向には注意が必要である。

爬虫類では、アカウミガメの産卵が北栄町の砂浜で近年確認された。山陰の海岸は本種の主要な産卵場ではないが、県内のその他の砂浜にも少数個体が産卵のため上陸している可能性がある。産卵可能な砂浜の現況確認、産卵確認調査および産卵場所となる砂浜の保全が早急に望まれる。

（岡田 純・鶴崎展巨）



アカウミガメ



オオサンショウウオ



ナガレタゴガエル

アカウミガメ カメ目ウミガメ科
Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



雄 米子市皆生漁港(混獲) 2006.8.8/撮影：川上 靖

■**選定理由**：世界的に減少傾向。記録数は少ないが、県内の砂浜海岸でも産卵・孵化が確認されている。

■**特徴**：甲長70–100 cm程度。背甲は赤褐色や茶褐色。本州、四国、九州で産卵する唯一のウミガメ類。日本での産卵は5–8月とされているが、県内では8–10月に産卵または孵化が確認されている。沿岸域に生息し、成体は底層、幼体～亜成体は表層で生活。成体は貝類や甲殻類などを食べる。

■**分布** 県内：稀であるが、岩美町、北栄町などで産卵・孵化が確認されている。漂着および混獲は、近年ほぼ毎年記録されている。県外：世界の亜熱帯、温帯海域に生息。日本では本州中部以南の沿岸で産卵。

■**保護上の留意点**：漁業による混獲に注意するとともに、産卵のための砂浜の保全が必要である。

■**文献**：4, 5, 6.

執筆：川上 靖

ニホンイシガメ カメ目イシガメ科
Mauremys japonica (Temminck & Schlegel, 1835)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：情報不足 (DD)



雌 日南町日野川 2005.4.16/撮影：岡田 純

■**選定理由**：分布が局限され個体数が少ない。クサガメとの交雑個体が確認されており、動向に注意が必要。

■**特徴**：背甲長14–20 cm程度。背甲は黄褐色または茶褐色で後縁は鋸歯状。腹甲は黒色。河川の上流・中流域の流れの緩い水域や池沼に生息する。鳥取県内における本種の詳しい生態は不明。

■**分布** 県内：米子市、南部町、日南町、鳥取市。目撃情報は倉吉市や北栄町からもあるが未確認。県外：本州、四国、九州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：日南町の日野川上流域には本種集団が確実に生息しているが、他の産地における生息状況は不明である。一方、鳥取市や南部町からクサガメとの交雑個体が発見されており、他種のカメを含めた生息実態調査が必要である。川岸のコンクリート化は生息場所の確保や産卵場所への移動を困難にするので河川内外の生態的連続性を保つことが必要。

■**文献**：1, 7, 8, 24, 40.

執筆：岡田 純

ニホンスッポン カメ目スッポン科
Pelodiscus sinensis (Wiegmann, 1835)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



斐伊川 2008/撮影：中島 悟

■**選定理由**：生息数を含め野外での生活史に関する知見がきわめて乏しい。野生化した国外産養殖個体との間で交雑が進んでいる可能性が高く、在来個体群の存続が危惧される。

■**特徴**：背甲長20–35 cm。背甲は扁平で鱗板をもたず、軟らかな皮膚に覆われている。水かきが発達し水中生活に適応している。5–8月頃、陸上の土中に産卵し、2–3カ月でふ化する。肉食性で魚類、甲殻類などを食べ、冬は砂泥底に潜り冬眠する。

■**分布** 県内：県内全域の河川の中・下流域の砂泥底の緩流部や池や沼。県外：本州、四国、九州、琉球列島；台湾、中国東部、ベトナム北部など。

■**保護上の留意点**：護岸工事、ため池・用水路改修、砂泥底の浚渫など生息環境を改変する際には、生息状況を把握した上で十分な保全対策を講じることが望まれる。河川敷・中州、砂泥底の保全、緩傾斜の土羽護岸など。

■**文献**：28.

執筆：中島 悟

タカチホヘビ 有鱗目(トカゲ目)ヘビ科

Achalinus spinalis Peters, 1869

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町長谷 2001.7.25/撮影：岡田 純

■**選定理由**：県内の記録は3例しかなく希少と思われるが、生息状況は不明であり、「情報不足」とした。

■**特徴**：全長30–60 cm程度の小型のヘビ。鱗に虹色光沢があり、背中線の上に一本の黒い条線が尾の先まである。尾下板は二分せず単一。森林に生息し、倒木の下、ガレ場、落葉下などから発見される。地中性で乾燥にとても弱い。

■**分布** 県内：これまでに鳥取市佐治町で3個体、岩美町で1個体、若桜町で1個体記録されている。これらは標高約260–660 mの地点である。県外：本州、四国、九州、大隅諸島；中国東南部。

■**保護上の留意点**：佐治町の記録は林道の側溝に落下していたものである。他県でも切り通しの道路や林道で轢死あるいは側溝に落ちて乾燥、死亡した状態で見つかることが多い。生息地に側溝を敷設する際は落下の防止および脱出路を設けるなど配慮が必要。

■**文献**：25, 30, 32.

執筆：岡田 純

シロマダラ 有鱗目(トカゲ目)ヘビ科

Dinodon orientale (Hilgendorf, 1880)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



成体 若桜町春米 2006.10.27/撮影：岡田 純

■**選定理由**：宅地開発による生息地の破壊、餌となるトカゲ類の減少によって生息条件が悪化している。発見しにくく、生息状況が不明。

■**特徴**：全長30–70 cm程度の小型のヘビ。背面は灰褐色で黒い横帯が入る。夜行性で、昼間は石垣や樹皮下などに潜む。トカゲや小型のヘビ等の爬虫類を食べる。海岸付近から山地まで広い範囲で見られるが、発見例は少なく県下から13例が報告されるのみ。日南町産の個体が飼育下で7月に2卵産んだ例がある（岡田純、未発表）。

■**分布** 県内：八頭町、若桜町、倉吉市、南部町、日南町で確認されている。県外：北海道、本州、四国、九州、伊豆大島等（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：トカゲ類を捕食するため、それらが生息できる環境を保全することが必要。

■**文献**：9, 12, 27, 29.

執筆：岡田 純

カスミサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科

Hynobius nebulosus (Temminck & Schlegel, 1838)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



低地型 鳥取市 2005.3.7/撮影：岡田 純

■**選定理由**：県内の生息地が減少しており、個体数も少ない。低地に生息する個体群は開発の影響で、いくつかの生息地ではほぼ絶滅状態にある。

■**特徴**：全長9–13 cm。背面は黄褐色で尾の上下に黄色条線がある。脊梁部に生息する高地型は尾の黄色条線が不明瞭で、体側や尾の白色小点が多く地衣状を呈すること等で低地型と区別される。低山から中国山地にかけての森林に生息し、湧水のある溝、湿地の泥中や落葉下、源流部の石の下面等に産卵する。繁殖期は1–3月（低地）、4–5月（高地）。

■**分布** 県内：低地型は沿岸部を中心に低地（約20–400 m）。高地型は日南町、琴浦町、大山町、江府町の標高約500–1000 m以上の高地。県外：愛知県以西の本州、四国、九州；高地型は中国山地脊梁部周辺。日本固有種。

■**保護上の留意点**：低地型の生息地は開発で明らかに減少しており、早急な実態調査と保全対策が必要。マニアや業者による捕獲、販売は脅威。

■**文献**：11, 16, 22, 33.

執筆：岡田 純

ブチサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科
Hynobius naevius (Temminck & Schlegel, 1838)

鳥取県：準絶滅危惧種 (NT)

環境省：準絶滅危惧種 (NT)



雄 智頭町 2009.5.1/撮影：岡田 純

■**選定理由**：生息地が限定され、局地的に分布する。いずれの生息地も個体数が少なく、道路の敷設や皆伐等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：全長8–15 cm。背面は茄子紺の地に銀灰色の地衣状斑紋がある。幼生の指先に黒爪がない。産卵期は4月下旬から5月中旬で、沢の源流域で産卵する。幼生は夏季に沢の淀みに生息し、多くは9月上旬までに変態する。

■**分布** 県内：標高約300 m以上の山地森林。標本に基づく産地は日南町、鳥取市（鹿野町、用瀬町）、智頭町、若桜町から卵のうが発見されている（岡田純、未発表）。県外：中国地方、九州（熊本、宮崎、鹿児島各県を除く）。日本固有種。

■**保護上の留意点**：県内産の小型サンショウウオの中では分布が局所的で個体数が少なく生息地の保全が強く望まれる。山地森林に生息するため開発による影響は比較的少ないと思われるが、皆伐や生息地周辺での道路の敷設による生息環境の悪化が懸念される。マニアや業者による乱獲も脅威。

■**文献**：34.

執筆：岡田 純

ヒダサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科
Hynobius kimurae Dunn, 1923

鳥取県：準絶滅危惧種 (NT)

環境省：準絶滅危惧種 (NT)



成体 鳥取市国府町 2009.3.8/撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数も少なく、道路の敷設や皆伐等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：鳥取県を代表する山地流水性の小型サンショウウオ。全長8–16 cm。背面に黄橙色の不規則な斑紋があるのが特徴。標高100 m程度の低山地から1000 mを超える中国山地脊梁部にかけての森林に生息する。産卵期は2–4月で、源流の石の下などに産卵する。幼生は指先に黒爪があり、低地を除き越冬する個体が多く見られる。

■**分布** 県内：県内全域の山地。県外：関東・北陸・中部・近畿・中国の各地方。日本固有種。

■**保護上の留意点**：砂防ダム建設、森林伐採などによる水量の減少、生息地の乾燥化は個体群に大きな影響があるので注意が必要。マニアや業者による捕獲、販売も脅威。

■**文献**：10, 14, 35.

執筆：岡田 純

ハコネサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科
Onychodactylus japonicus (Houttuyn, 1782)

鳥取県：準絶滅危惧種 (NT)

環境省：—



成体 若桜町氷ノ山 2007.9.22/撮影：岡田 純

■**選定理由**：県内の限られた山地森林に生息し、個体数も少ない。皆伐や道路の敷設等により生息環境が悪化傾向にある。

■**特徴**：山地溪流に産卵する流水性の小型サンショウウオ。全長10–19 cm。背面に朱色の縦縞または不規則な斑紋がある。幼生および繁殖期の成体に黒爪が発達し、流水に適応している。5–6月頃に冷たい伏流水中で産卵する。幼生期間が3年あまりと長く、溪流の石の下などでサイズの異なる幼生がみられる。変態後も肺が発達せず、皮膚呼吸をおこなう。

■**分布** 県内：標高約300 mから1000 mを超える山地森林。県外：本州、四国の山地。日本固有種。

■**保護上の留意点**：本種は幼生期間が長く水量豊富な溪流に幼生が多く生息している。皆伐による水量の減少、生息地の乾燥化は、幼生、成体ともに大きな影響を与えるので注意が必要。

■**文献**：17, 36.

執筆：岡田 純

オオサンショウウオ サンショウウオ目オオサンショウウオ科

Andrias japonicus (Temminck, 1836)

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



雄 日南町日野川 2005.5.12/撮影：岡田 純

■**選定理由**：堰堤や護岸工事で生息地が破壊分断され、産卵巣穴が消失するなど生息環境が悪化している。

■**特徴**：全長50–100 cmで最大150 cmにもなる。河川の中上流域に生息し、集落内の用水路等でもみられる。夜行性で普段は川岸の横穴や石の下等に潜み、サワガニ、水生昆虫、魚類等を捕食する。繁殖期は8月下旬から9月中旬。雄は産卵巣穴を占有し、卵やふ化幼生を保護する。

■**分布** 県内：天神川水系、日野川水系の中・上流域。名和川等大山山麓の小河川にも生息する。千代川水系からも生息記録はあるが稀である。県外：岐阜県以西の本州、四国、九州（大分県）。日本固有種。

■**保護上の留意点**：生息は広域で確認されているが、再生産が順調になされている生息地は局限される可能性が高く、精度の高い実態調査と保全対策が強く望まれる。保全対策後のモニタリング調査は不可欠。

■**文献**：15, 19, 21, 23.

執筆：岡田 純

アカハライモリ (イモリ) サンショウウオ目イモリ科

Cynops pyrrhogaster (Boie, 1826)

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)

雌の広島型(左)と篠山型(右)
八頭町郡家 2005.4.4/撮影：岡田 純

■**選定理由**：鳥取県内で本種の2つの地方型（篠山型と広島型）間の移行が起こる。都市化や圃場整備により個体数が減少している。

■**特徴**：全長雄8–10 cm、雌10–13 cm。背面は黒褐色で腹面に赤またはオレンジ色の不規則な黒斑がある。腹面の斑紋の違いによりいくつかの地方型が知られるが、そのうち県内には篠山型と広島型が分布し、両者の中間的な個体もみられる。

■**分布** 県内：県内全域。県外：本州、四国、九州と周辺の離島。日本固有種。

■**保護上の留意点**：圃場整備による乾田化等により個体数が減少している。本種は産卵場所となる水場と周辺の陸域を行き来するので両者の生態的連続性を保つことが必要である。本県の産地は生物地理学的に貴重であり、生息地の保全が強く望まれる。マニアや業者による捕獲、販売は脅威。

■**文献**：2, 18, 37.

執筆：岡田 純

ニホンヒキガエル カエル目ヒキガエル科

Bufo japonicus Temminck & Schlegel, 1838

鳥取県：その他の重要種(OT)

環境省：—

ニホンヒキガエル(狭義)の雄
若桜町春米 2010.4.19/撮影：岡田 純

■**選定理由**：鳥取県は本種の2亜種ニホンヒキガエル（狭義）とアズマヒキガエルの移行地域と見られる。ほとんどの生息地で個体数が少なく希少。

■**特徴**：体長7–15 cm内外。背面は茶褐色でイボ状の隆起がある。鼓膜のサイズ等で2亜種は区別される：ニホンヒキガエル（狭義）*B. j. japonicus*は鼓膜が小さく長径は眼と鼓膜までの距離にほぼ等しい。アズマヒキガエル*B. j. formosus*の鼓膜は大きく長径は眼と鼓膜までの距離の2倍以上。低地から山地にかけての森林に生息し、春にひも状の卵を止水に産卵する。

■**分布** 県内：ニホンヒキガエルは県内一円。アズマヒキガエルと思われる個体は県東部から確認されている。県外：本州、四国、九州と周辺の離島。日本固有種。

■**保護上の留意点**：両亜種の分布の境界は不明確であり、早急な生息実態調査と生息地の保全が必要である。

■**文献**：13, 38.

執筆：岡田 純

ナガレタゴガエル カエル目アカガエル科

Rana sakuraii Matsui & Matsui, 1990

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 若桜町 2009.12.29/撮影：岡田 純

- 選定理由**：県東部の山地に分布が局限され、個体数が少ない。
- 特徴**：山地森林に生息する溪流性のカエル。体長4–6 cm。タゴガエルに似るが、本種は後肢の水かきが発達し趾端近くまでであるので区別できる。県内での詳しい生態は不明だが、11月下旬以降溪流に集まり越冬する。3月頃溪流で産卵すると思われる。繁殖期に雄の体側の皮膚が著しく伸長し弛む。県内では今のところ若桜町および鳥取市佐治町の山地（標高約430–880 m）から知られるのみで、上記に隣接する地域での生息確認が待たれる。
- 分布** 県内：若桜町、鳥取市佐治町。県外：関東、北陸、中部、近畿、中国地方の山地。日本固有種。
- 保護上の留意点**：森林伐採や林道敷設による生息地の乾燥化、水量の減少は、個体群に大きな影響があるので注意が必要。
- 文献**：20, 26.

執筆：岡田 純

ニホンアカガエル カエル目アカガエル科

Rana japonica Günther, 1858

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雌 鳥取市/撮影：岡田 純

- 選定理由**：生息地が局限され、個体数が少ない。乾田化により産卵場所が消失し、いくつかの生息地でほぼ絶滅状態にある。
- 特徴**：体長雄5.5 cm, 雌6.5 cm内外。背面は赤褐色で、褐色が強い個体や、明るいオレンジ色の個体もみられる。眼の後方から後肢の付け根にかけてほぼ直線の隆条がある。繁殖期の雌の腹面は鮮やかなオレンジ色。1–3月、高地で5月にかけて日当たりのよい湿田や湿地、用水路にゼリー状の卵塊を産む。幼生は背面中央に一对の黒点があることが多い。
- 分布** 県内：岩美町、鳥取市、米子市、南部町、江府町、日南町。県外：本州、四国、九州および周辺の島々（日本固有種）。
- 保護上の留意点**：本種の減少の大きな原因は圃場整備による乾田化で産卵場所が失われていることである。個体数が減少している生息地では、休耕田に水を張って産卵場所を確保する等の保全対策が望まれる。
- 文献**：31, 39.

執筆：岡田 純

カジカガエル カエル目アオガエル科

Buergeria buergeri (Temminck & Schlegel, 1838)

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



日南町日野川 2006.7.4/撮影：岡田 純

- 選定理由**：鳥取県東部は幼生の体型、歯列によって区別される東北型、西南型の移行地域に当たる。河川改修により産卵場所や幼生の生息環境等が消失している河川がある。
- 特徴**：体長雄4 cm, 雌7 cm内外。背面は灰～茶褐色で不規則な斑紋がある。5–7月頃雄は河川の石の上でさかんに鳴いて雌を待つ。雌雄は抱接し河床の石の下などに産卵する。幼生は川岸付近の礫下等でみられ、8–9月頃には変態し、上陸する。
- 分布** 県内：県内全域の河川の中上流域。県外：本州、四国、九州。日本固有種。
- 保護上の留意点**：産卵場所である河川と繁殖期以外の生息場所の河畔林との連続性を保つことが必要。2地理型の移行域の保全はとくに重要。生息地の復元等を行う場合、他の河川から個体の導入は行わないこと。
- 文献**：3.

執筆：岡田 純

■参考文献 両生類・爬虫類

〈書籍略称〉

鳥取県のすぐれた自然 (動物) = 江原昭三・鶴崎展巨 (編)
(1993) 鳥取県のすぐれた自然 (動物編) 鳥取県衛生環境部
自然保護課発行 (鳥取市) 327 pp.
レッドデータブックとっとり (動物) = 鳥取県自然環境調査研
究会 動物調査部会 (編) (2002) レッドデータブックとっ
とり 鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物. 動物編. 鳥取
県生活環境部環境政策課, 214 pp.

1. 深川博美 (2010) 鳥取市内で発見されたニホンイシガメとスッポンの記録. 山陰自然史研究, 5: 65-66.
2. Hayashi, T. & Matsui, M. (1988) Biochemical differentiation in Japanese newts, genus *Cynops* (Salamandridae). Zoological Science, 5: 1121-1136.
3. 細井光輝 (2002) カジカガエル. p. 86. In: レッドデータブックとっとり (動物).
4. 川上 靖・一澤 圭 (2010) 鳥取県沿岸に漂着した大型海洋動物 (2008~2009年) とウミガメ類の産卵記録. 鳥取県立博物館研究報告, 47: 83-86.
5. 川上 靖・平尾和幸・清末幸久 (2004) 鳥取県沿岸における漂着動物の記録 (2002年4月~2003年12月). 鳥取県立博物館研究報告, 41: 1-8.
6. 川上 靖・清末幸久・一澤 圭・平尾和幸・安藤重敏 (2006) 鳥取県沿岸における漂着動物 (2004年1月~2005年12月) とアカウミガメに付着していた暖海性紅藻類トゲキヌイトグサ *Antithamnion tanakae*. 鳥取県立博物館研究報告, 43: 1-5.
7. 桐原佳介 (2007) 鳥取県米子市岡成におけるイシガメの記録. 山陰自然史研究, 3: 21.
8. 桐原佳介 (2010) 鳥取県西伯郡南部町におけるニホンイシガメとクサガメの種間雑種の記録. 山陰自然史研究, 5: 67-68.
9. 桐原佳介・桐原真希 (2006) 鳥取県西伯郡南部町におけるシロマダラの初記録. 山陰自然史研究, 2: 32-33.
10. 桐原真希 (2007) 鳥取県南部町の低標高地で確認されたヒダサンショウウオ. 山陰自然史研究, 3: 18.
11. 桐原真希 (2010) 鳥取県西伯郡南部町におけるカスミサンショウウオの記録. 山陰自然史研究, 5: 71-74.
12. 國本洗紀 (2003) 打吹山周辺におけるシロマダラの記録. 山陰自然史研究, 1: 22.
13. 前田憲男・松井正文 (1999) 改訂版日本カエル図鑑. 文一総合出版. 223 pp.
14. Matsui, M., Misawa, Y., Nishikawa, K., & Tanabe, S. (2000) Allozymic variation of *Hynobius kimurae* Dunn (Amphibia, Caudata). Comp. Biochem., Physiol. Part B, 125: 115-125.
15. 中島 悟 (2002) オオサンショウウオ. p. 83. In: レッドデータブックとっとり (動物).
16. 野田吉夫 (1993) カスミサンショウウオ. pp. 76-77. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
17. 野田吉夫 (1993) ハコネサンショウウオ. pp. 82-83. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
18. 野田吉夫・鶴崎展巨 (1993) イモリ. pp. 88-91. In: 鳥取県のすぐれた自然 (動物).
19. 野村幸弘 (2001) 鳥取県におけるオオサンショウウオの保護・確認情報とその考察. 鳥取生物, 33/34: 15-18.
20. 岡田 純 (2002) 鳥取県佐治村三国山のナガレタゴガエル新産地. 鳥取生物, 35: 1-2.
21. 岡田 純 (2006) 鳥取県中・西部におけるオオサンショウウオの生息状況. 山陰自然史研究, 2: 21-28.
22. 岡田 純 (2006) 鳥取県日南町大倉山からのカスミサンショウウオ高地型の記録. 山陰自然史研究, 2: 40-41.
23. 岡田 純 (2008) 倉吉市関金町松河原の水路で再捕獲されたオオサンショウウオ. 山陰自然史研究, 4: 61-63.
24. 岡田 純・岡田珠美 (2010) 鳥取県日南町日野川からのニホンイシガメの記録. 山陰自然史研究, 5: 64-65.
25. 岡田 純・鶴崎展巨 (2002) 鳥取県におけるタカチホヘビの新記録. 鳥取生物, 35: 3-5.
26. 岡田 純・亀山 剛・池田誠慈 (2001) 鳥取県で発見されたナガレタゴガエル. 両生類誌, 6: 18-20.
27. 岡田 純・岡田珠美・小林佳崇 (2010) 鳥取県におけるシロマダラの記録. 山陰自然史研究, 5: 70-71.
28. 太田英利・佐藤寛之 (1997) スッポン *Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1834). 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (IV), pp.322-330. 日本水産資源保護協会, 東京.
29. 田村昭夫 (2002) シロマダラ. p. 79. In: レッドデータブックとっとり (動物).
30. 東常哲也・宇都宮妙子 (1999) 鳥取県佐治村からのタカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters, 1869 について. 爬虫両生類学会報, 1999 (1): 5-7.
31. 鶴崎展巨・岡田 純 (2000) IV. 動物. pp. 59-92. In: 鳥取県生活環境部景観自然課 (編) 毛無山・宝仏山自然地域学術調査報告書. 鳥取県生活環境部景観自然課, 135 pp.
32. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) タカチホヘビ. p. 79. In: レッドデータブックとっとり (動物).
33. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) カスミサンショウウオ. p. 80. In: レッドデータブックとっとり (動物).
34. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) ブチサンショウウオ. p. 81. In: レッドデータブックとっとり (動物).
35. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) ヒダサンショウウオ. pp. 81-82. In: レッドデータブックとっとり (動物).
36. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) ハコネサンショウウオ. p. 82. In: レッドデータブックとっとり (動物).
37. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) イモリ. p. 84. In: レッドデータブックとっとり (動物).
38. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) ニホンヒキガエル. p. 84. In: レッドデータブックとっとり (動物).
39. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) ニホンアカガエル. p. 85. In: レッドデータブックとっとり (動物).
40. 山本賢二 (2002) イシガメ. p. 78. In: レッドデータブックとっとり (動物).